

熊本市立地適正化計画の改定版(素案)に関するパブリックコメントの結果について

令和3年(2021年)2月24日

都市政策課

熊本市立地適正化計画の改定版(素案)について、市民の皆様からご意見を募集したところ、下記のようなご意見をいただきました。ありがとうございました。なお、公表にあたっては、取りまとめの都合上、ご意見を案件ごとに集約させていただきました。

記

- 1 意見募集期間 令和2年(2020年)12月25日(金)～
令和3年(2021年)1月25日(月)
- 2 意見募集結果の公表日 令和3年(2021年)2月24日
- 3 ご意見の提出状況 ご意見を提出された方の人数 5名
ご意見の件数(まとめごと) 19件
- 4 提出されたご意見と、それに対する本市の考え方 別紙記載のとおり
※いただいたご意見は、趣旨を要約させていただいております。また、同内容のご意見は一項目として取りまとめさせていただきました。

(内訳)

【対応1(補足修正)】

ご意見を踏まえて素案を補足修正または追加記載したもの 2件

【対応2(既記載)】

既にご意見の趣旨、考え方を盛り込んでいる、あるいは同種の記載をしているもの 8件

【対応3(説明・理解)】

市としての考えを説明し、ご理解いただくもの 3件

【対応4(事業参考)】

素案には盛り込めないが、事業実施段階で考慮すべき事として今後の参考とするもの 5件

【対応5(その他)】

素案に対する意見ではないが、意見として伺ったもの 1件

5 意見募集結果資料の入手方法

熊本市ホームページに掲載しており、また、都市政策課窓口、区役所総務企画課、まちづくりセンター(中央区まちづくりセンターを除く。)、中央公民館、中央区まちづくりセンター大江交流室、中央区まちづくりセンター五福交流室、河内まちづくりセンター河内交流室、河内まちづくりセンター芳野分室、城南まちづくりセンター城南交流室、総合保健福祉センター及び各地域コミュニティセンターでも閲覧できます。

お問合せ先

熊本市 都市政策課

電話番号：096-328-2502

提出されたご意見とそれに対する本市の考え方

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応内訳	
第3章 熊本市における立地適正化計画	1	都市機能誘導区域等へのアクセス手段として記載してある“コミュニティ交通”は、具体的な案や導入している地域と方法を紹介してはどうか。	ご意見を踏まえ、現在本市で導入しているコミュニティ交通 [*] について追記しました。	対応1 補足修正
	2	都市機能誘導区域間のアクセス手段について、健軍は市電、植木方面はバス等、それぞれの地区への手段を記入してはどうか。	今回、関連する「熊本地域公共交通計画(策定中)」から抜粋した地域公共交通の将来像を記載しています。 「熊本地域公共交通計画(策定中)」では、各方面の幹線を担う交通機関を示しています。	対応2 既記載
第4章 都市機能誘導区域	3	地図上に文字で場所が記載してあるが、位置を示した点などが無いのでわかりづらい。	各地区の地図上に代表的な施設名等とその位置を示した点を追記しました。	対応1 補足修正
第7章 具体的な施策 (都市機能)	4	中心市街地に近い地区とそれ以外の地区では環境も違うため、それぞれにあった地域の核づくりが必要。	今後は、各地域の皆様と連携しながら地域資源や特性を踏まえた施策の立案・展開を進めて参ります。	対応2 既記載
	5	15の地域拠点に各企業や個人がリモートワークできるオープンスペース設置等のインフラ整備を盛り込んでほしい。 更に防災の連絡拠点になることも考えられ、市役所などの出張先になるような仕組みを考えてはどうか。	現在、各地域拠点における機能強化の推進に関する検討を行っています。 ご意見につきましても今後の参考にさせていただきます。	対応4 事業参考
第7章 具体的な施策 (都市機能) (居住)	6	都市機能が整っていると自然と人は住みたいと思う。 今後は、実際に機能や住む場所を提供する開発業者等と考え方を共有していくことも重要。	届出制度等を活用した市民・事業者の皆様方の理解促進はもとより、インセンティブ [*] による誘導施策の展開等にも取り組んで参ります。	対応2 既記載
	7	中心市街地に多い間口が2m以下の土地等では、新築もできないことや、売買が進みにくいことで、空き家問題や地価の下落につながるため、建替え時に改善できるような仕組みをつくってはどうか。	現在、中心市街地を対象に、“まちなか再生プロジェクト”として、建築物の建替に伴う敷地の集約化や、低未利用地の有効活用の促進等、スポンジ化対策についての取組を進めております。	対応2 既記載

^{*}コミュニティ交通：バス路線等でカバーできない地域に対し、日常生活に必要な移動手段を確保するため導入される予約型乗合タクシー等の交通手段。

^{*}インセンティブ：目標を達成するために企業や人等に対して行動を促すための動機付け(支援)を行うこと。

第7章 具体的な施策 (公共交通)	8	デマンド型乗合タクシーなど多様な運行形態によるコミュニティ交通の導入には賛成。 既存タクシーを活用する等して、時間・利用目的・場所等の柔軟性に富んだ自由度の高いコミュニティ交通手段も検討してほしい。	ご意見を参考にさせていただき、市民の皆様にとって利用しやすいコミュニティ交通について検討を進めてまいります。	対応2 既記載
	9	バス車内も座りづらい座席の車体が多い。 福岡の西鉄バスのように乗りやすさや便利さを追求してほしい。	交通事業者と連携した利用促進を図ることとしております。 ご意見をバス事業者と共有し、皆さまにとって利用しやすい車内環境の整備について検討してまいります。	対応2 既記載
	10	通勤でバスを利用したくても、渋滞、満員、少ない運行本数により利用する気になれない。 バス停付近の土地を拡張し、後続車の流れを良くするなど、個別具体的にもスピード感をもって取り組んでほしい。	渋滞対策に関して、道路整備プログラムに基づき、主要渋滞箇所の改善や公共交通軸の強化に寄与する道路整備等、着実な事業の推進に努めてまいります。 また、利便性向上のため、バスの接近情報をお知らせする「バスロケモニター」の設置やバス停近くのコンビニエンスストア等での「バス待ち処」の設置など、バス事業者と連携し、待合環境の改善に取り組んでいるところです。	対応2 既記載
	11	バス路線を見直すことも重要だが、市内に5社もバス会社があり、それぞれに補助金を入れて運営しているのであれば統廃合し、路線の検討、路線拡大、渋滞緩和、ラッシュ時増便、利用者増加につなげるべき。	現在、5社が共同経営（会社の形態に変更はありませんが、5社が十分に協議してサービスを調整し利便性の維持向上と運行の効率化を図ること）を実施する方向で準備を進めております。	対応3 説明・理解
	12	市電の廃止検討により、中心市街地の渋滞緩和やバス利便性向上につながると考えられないか。	市電は1日約3万人、年間約1100万人にご利用いただいております。 重要な基幹交通としての市電を更に皆さまに利用して頂けるようサービスの向上などに努め、渋滞緩和等にご貢献してまいります。	対応3 説明・理解
	13	電車についても、路線乗り入れ等により便利になるようにできないか。 上熊本駅ですぐつながりそうな電車路線もある。	公共交通機関同士の乗り継ぎを良くすることは利用者にとって重要であることから、新しい技術を用いたサービス(MaaS*等)について検討を進めて参ります。	対応4 事業参考

※MaaS：モビリティ・アズ・ア・サービス。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

第8章 防災指針	14	各災害リスクに対する足りていないインフラ整備については対策が取られるのか。	今回、居住誘導区域を中心に水害や地震に関する災害リスク分析を行い、抽出した課題を踏まえ取組を整理しました。 今後は、危機管理部局など関連部局と今回の分析結果などの共有を図り、河川や道路等インフラ整備をはじめとした防災機能強化に努めてまいります。	対応2 既記載
	15	誘導エリア外の住民とのコンセンサスが取れるよう、細やかな情報発信と、地域住民に対する丁寧な説明を期待する。	本計画策定にあたっては、市民アンケートや懇話会等でいただいたご意見も踏まえ居住誘導区域等の設定を行いました。 今後も、各区まちづくりセンターや防災担当部局等と連携し、計画に関する情報発信及び地域住民とのリスクコミュニケーション**等に努めてまいります。	対応4 事業参考
	16	深さ以外のリスク情報もまとめて掲載することはいいこと。 今回明らかにしたリスク等を周知していくことが重要。 ハザード情報を大きな図面で公民館に貼ったり、タブレットに入れて自治会等と共有しておく効果的ではないか。	市民・地域・行政が災害リスクを自覚し、受け止めようとして具体的な行動や取組につなげていけるよう、ご意見も参考にさせていただきながら、関係部局とも連携し周知を図ってまいります。	対応4 事業参考
素案全体に関すること	17	今後何十年かけてコンパクト化を実現するのか。	多核連携都市の実現には、非常に長期的なスパンを要するものと考えており、完成時期までは定めていませんが、将来像の実現に向け、適宜施策を展開しながら取り組んでまいります。	対応3 説明・理解
	18	将来を見据えたとても前向きな計画とを感じる。 子や孫が熊本に住んでいてよかったと思えるような、まちづくりを実現するよう頑張してほしい。	人口減少・高齢化の進展が見込まれる中でも長期的に都市活力を維持し、誰もが移動しやすく暮らしやすい多核連携都市の実現に向け取り組んでまいります。	対応4 事業参考
その他	19	熊本は渋滞がひどいため、環状道路の整備を応援している。	道路整備に関するご意見として関係部署と共有させていただきます。	対応5 その他

※リスクコミュニケーション：リスク評価者、事業者、研究者、その他の関係者の間で、情報および意見を相互に交換すること。